

## 2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 2 日作成)

小委員会名	温熱感小委員会		主 査 名：垣 鐔 直 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (熱環境運営委員会)		委員長名：加藤信介 主 査 名：坂本雄三
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	本小委員会は、これまでのアカスタ作成のための活動の成果を鑑み、今後の温熱環境に関する研究の展望を模索することを目的とする。2006 年度も昨年度同様に各 WG の活動を支援する予定である。但し、2006 年度はこれまでの 3 つの WG に加え、新たに「28 オフィス環境 WG」を新設したので、4 つの WG の活動を支援する予定である。		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：2005 年度に公募済み		
	垣鐔直(名城大), 都築和代(産業技術総合研究所), 土川忠浩(兵庫県立大), 山岸明浩(信州大), 磯田憲生(奈良女大), 大野秀夫(椋山女大), 梶井宏修(近畿大), 久野覚(名大), 田辺新一(早稲田大), 松原斎樹(京都府立大), 深井修一(横国大), 銚井修一(京大), 堀越哲美(名工大), 横山真太郎(北大), 加藤信介(東大生研)		
設置 WG (WG 名: 目的)	1. 現状研究分析 WG: 近年の我が国における温熱環境に関する研究の動向調査を行う。 2. 温熱環境・要素測定技術 WG: 温熱環境の測定法について検討を行う。 3. 温熱感学術規準 WG: 温熱感の学術基準について策定について検討を行う。 4. 28 オフィス環境 WG: 28 設定に関する基礎資料を整理し, 居住者への影響を取りまとめる。		
2006 年度予算	162,000 円	ホームページ公開の有無：有り 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s16/">http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s16/</a>	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 「人体熱モデル・熱環境シミュレーションの最前線」シンポジウム 参加者数 55 名 (資料) 「人体熱モデル・熱環境シミュレーションの最前線」シンポジウム
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. 室内温熱環境測定法解説書(案)
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 計画通り, 室内温熱環境測定法解説書(案)に関する意見集約を完了した。 2. 温熱環境要素技術についての文献整理等を検討した。 3. 計画通り, シンポジウムを開催した。 4. オ - ガナイズドセッションを企画し, 実行した。
委員会活動の問題点・課題	特になし

\* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。

\* 環境本委員会傘下の小委員会においては、上記の活動成果報告書に加えて、以下の自己評価を記入すること。

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

## 2006 年度 小委員会活動 自己評価

## (中間年度評価)

総合評価 (4段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本小委員会は、これまでのアカスタ作成のための活動の成果を鑑み、今後の温熱環境に関する研究の展望を模索することを目的とした。また、2000年度～2004年度の4年間に掛けて作成したアカスタ及び作成するための活動を踏まえて、総括としての公開講座を開いたり、さらに今後の温熱環境に関する研究の展望を模索するための勉強会を開くことも目標とした。</p> <p>2005年度は、年3回の小委員会を開催し、3つあった傘下のWGも活発に活動した。成果としては、室内温熱環境測定法の解説をまとめたことが挙げられる。また、2006年3月28日に「屋外・半屋外における温熱環境評価」と題したシンポジウムを開催し、60名を越える参加者があり、盛會に終わった。</p> <p>2006年度は、前年度同様に年3回の小委員会を開催し、3つあった傘下のWGに、「28 オフィス環境 WG」を加えて、4つのWGとした。どのWGも活発に活動した。成果としては、「28 オフィス環境 WG」の主査及び委員を中心にオーガナイズドセッションを企画し、大会中に開催した。また、2006年12月15日に「人体熱モデル・熱環境シミュレーションの最前線」と題したシンポジウムを開催し、50名を越える参加者があった。以上に加え、小委員会のHPも立ち上げた。</p> <p>この様に、2年間で、当初目標とした活動計画をほぼ実行できたと評価している。しかし、アカデミックスタンダードに関しては、なかなか意見調整が進まず、予定していた成果より、後退したものとなった。特に、室内温熱環境測定法に関するアカデミックスタンダードは、作成に掛かってから既に5年を経過しており、やっと公開にこぎつけそうな状態である。以上を総括して、総合判断を「B」とした。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。